

麗らかな春の諭鶴羽山へ恒例のお花見



▲花見外出：南あわじ市の諭鶴羽（ゆづるは）ダム公園にて

ふくろう新聞

<発行>
特別養護老人ホーム
淡路ふくろうの郷
広報委員会
洲本市中川原町中川原28番地1
TEL:0799-25-8550
FAX:0799-25-8551
ホームページ
<http://www.normanet.ne.jp/~hyoufuku/>

ふくろうの郷北面に恒例の鯉のぼりが泳いでいます。この鯉のぼりは、地域交流会の皆さんが毎年長い青竹を切り出しポールを組み立ててくださいます。今年も地域の皆様の健康とご多幸を祈り、毎日元気に泳いでいます。

長寿のお祝い・ふくろう祭りでも 家族の会24年度総会

去る3月23日、午前10時からふくろうの郷で開催された総会では、6家族8人が出席、平成25年度の事業など意見交換をされました。

平成24年度は百歳のお祝いでしたが、平成25年度は、古希・喜寿：など長寿のお祝いをする事、その資金作りも兼ね、不用品を集めて10月27日のふくろうふれあい祭りで家族の会として出店することなどが話し合われました。

また、毎月の家族通信に受診状況なども書き込むなどの提案もされました。また、2月6日に永眠された柴山貞子様の長男・柴山康治様ご夫妻が、冒頭に家族会へのお礼を述べられました。

平成25年度の家族の会役員は次の通りです。
会長 広地 タマヘ
副会長 堀越 祥二
会計 今川 清史
会計監査 神 邦人
幹事 久保 尚司
長塚 寿子

なお、今期で退任された先山栄一様(副会長)、小林泉様(幹事)、ありがとうございました。



2年後の10周年を見通して平成25年度事業計画と予算を確定

第33回評議員会並びに第55回理事会を開催

3月23日13時から、ふくろうの郷にて第33回評議員会(欠席3名)並びに第55回理事会(書面出席2名)が開催されました。

理事長専決事項、行政監査結果等の報告のあと、第二次補正予算、平成27年4月移行される新会計基準や、ふくろうの郷の開所10年目を見越した平成25年度の事業計画(法人・各事業所)、中川原ふれあいセンターの第二期改修事業を含む予算案が審議されました。

淡路ふくろうの郷創立時にかかわった役員が新たな役員に引き継がれていく中で、また、運動団体も人が替わっていくという中で、「ひとり一人を大切に、共に生きる」という運動と理念を引きつぎ発展させていくことを確認しました。

財政面では介護報酬等の切り下げという厳しさの中で、さらに各種補助金の終了による減収や入所者負担の軽減などで約100万円の減収見込みの予算案が承認されました。また、就業規則の一部改正(65歳定年制)、60歳以上の職員の賃金改定などが承認されました。

素敵な笑顔で暮らしを楽しむ 濱田たきゑさん



▲ユニットで料理講座
ちらし寿司美味しいよ!

濱田たきゑさんは、1月11日にふくろうの郷に入居されました。入居間もなくは、住み慣れたご自宅で過ごしたい、との気持ちが強くとって楽しい生活となるよう支援をしたいと思います。
(生活支援員：原口)

自分史づくり
手話サークルの応援で新たな情報も



▶新しい情報もあり感謝です。

3月21日、花房夫婦の自分史づくりで加古川に行ってきました。白石を通過する途中に、ご主人が奥さんに「ここ、白石だよ」と教えてあげていたのを見て、故郷を懐かしく伝えているんだなあと、夫婦の愛を感じました。今回も加古川の手話サークルの方に協力していただき、花房さんの新しい情報などを知ることができ

中川原地区「独居老人食事会」



3月27日、淡路ふくろうの郷を会場に中川原地区民生委員会主催の「独居老人食事会」が行われ、中川原地域の独居老人、民生児童委員さん、福祉協力員さんの合計19名が参加されました。彩りも豊かな中川原の地場野菜を中心にした春のお弁当を楽しんでいた後、4つのグループに分かれて、ふくろうの郷の入居者とコーヒを飲みながら交流を行いました。独居の不安や不便さ、そんな中での「おたがいさま中川原」を利用しての感想なども寄せられました。また、初めて参加された地域の方からは、



▲当日の手作り料理

ふくろうの郷の多くの高齢者が、あ者が学校に行けなかったこと、結婚や出産が許されなかったことなど、聴こえるものなら当たり前の権利が保障されてこなかった事実、に憤りの声が出されました。
(八木)

き、感謝の気持ちでいっぱいです。話しを聞いていてもっと知りたいと思いました。

3月5日はご主人の誕生日で、色々なサプライズを用意してくれました。普段はあまり笑わない花房さんですが、この時は微笑みが見られ、奥さんは自分の事のように嬉しそうに笑っていました。

入居者の心からの笑顔が見られたとき、この仕事をしていて本当に良かったなあと感じます。
(生活支援員：石川)

☆ふくろう大学 料理講座☆
終了証を授与



▲花房豊治さん



▲谷村正雄さん

3月27日、ふくろう大学の講座の一つである料理講座が開かれ、手作りのロールケーキを作られました。

この日は、大矢施設長より入居者の方全員に修了証が授与されました。

修了証を受け取った入居者の方からは、笑顔が見られました。

今年度の料理講座が楽しみです。

穏やかな笑顔に、いつも優しい気持ちをいただきました



▲笑顔が素敵な志田さん

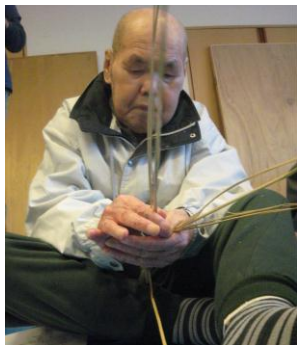
平成25年3月4日、淡路ふくろうの郷の入居者、志田喜代松さん(85歳)がご逝去されました。

喜代松さんは平成18年4月10日に奥様のこすゑさんと一緒に入居されました。

入居後もいつもお二人で過ごされ、こすゑさんの車いすを押して、ジューズを買いに行くことが日課となっておられました。

仲の良かったお二人も、時々、夫婦喧嘩をされている時もありましたが、その姿もなぜか微笑ましく感じました。

美味しそうにご飯を食べる姿。春には頭にタオルを巻いて、たけのこ掘りをされている姿。年末には、手慣れた手つきで黙々としめ縄作りをされている姿



▲得意なしめ縄作り毎年数10本作られました。

ど印象に残っています。

いつも穏やかな笑顔で、手をあげながら挨拶をしてくださる姿など、喜代松さんの笑顔を見ると、いつも優しい気持ちになることができました。

6年前に亡くなられたこすゑさんと天国で仲良く過ごしていただきたいと思います。

喜代松さんのご冥福をお祈りします。

(生活相談員:谷口秋菜)

追悼 ずっと2人で寄り添って

洲本市と島内の各町も震災での淡路聴力障害者協会と手話サークルの素晴らしい救援活動を評価され、「手話通訳者の活動範囲を拡大すること。専任通訳者と聴覚障害者の相談員が必要だ!」との願いから淡路聴覚障害者センター設置の要望へと発展。ついに震災の翌年(1996年12月)に島内の首長会が「1

北淡町の志田喜代松さん・こすゑさん夫妻を9年ぶりに訪ねる。元気だった2人にも9年の歳月は時を刻んでいた...



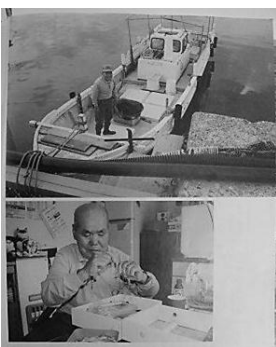
▲在りし日の志田喜代松、こすゑ夫妻(負けへんで第2号より)

市10町で手話通訳派遣センターを設置する」と発表、1997年6月に淡路聴覚障害者センターがオープンしました。

志田さん夫妻との関わりは淡路聴覚障害者センター職員の家訪問活動等から、ご夫婦の健康状態の変化もあり、淡路ふくろうの郷への入所へとつながっていきました。その当時の記録「あれから10年

そして未来へ(負けへんで第2号)から以下抜粋させていただきます。

「北淡町に住む志田さんの家は、震災で全壊しました。それからしばらくは仮設住宅で過ごしました。震災後も志田さんは、自分の船で漁に出ています。しかし、身体が弱ってきて漁に出ることがめっきり減ってきた志田さんが、最近太りはじめたのを妻のこすゑさんは心配します。今住んでいる町営住宅は、海岸から少し離れた高いところにあります。漁に出るとき、こすゑさんは家の窓から双眼鏡で船の行方を追います。





▲猫の小物入れを縫っている

縫い物の達人 いわお 巖さん(80才)の夢

巖末子さんは6年前、おのころの家が作業所から地域活動支援センターに移行時のお試し事業にご夫婦揃って参加されていましたが、その後、すぐにご主人が亡くなり、一人暮らしをされてきました。

おのころの家



〒656-0025
洲本市本町3丁目1-10
清水マンション1F
TEL・FAX 0799-26-0956

「多勢いると気が散って無理!夜、一人の時にする。」その方が集中してできる。」と言われます。「小さいポーチを10個ほしい。」と注文すれば、2〜3日後には出来あがりです。実はいつ注文されてもいいように途中までの状態で沢山ストックしてあるようです。「箱折りも

に錯覚してしまうくらい巖さんの世界に引っぱり込まれます。たまに「娘におこられた」とか「おこられたとかいわれます。よくよく話を聞いてみると一人暮らしをしているお母さんの身体のことや生活を心配するあまりに出た言葉でした。何でも思ったことをポンポン言い合える母娘つて羨ましいです。

素敵な審判免許 ゲートボール選手

『期限いつまで』と言われて慌てないでいいように」と「ある時はさつさと折って済ませたいんだ。」と言われます。見習いたいと思います。何をするのも動きが機敏で、思いついたら、さっと動いています。スピード感があります。

昔はご主人と二人ゲートボールをされてきました。今も一人で明石のグループで毎週練習されています。淡路で開かれた全国ろうあ者ゲートボール大会での勇姿は記憶に残っています。兵庫県大会でもろうあ協会会の会員、サークル会員と一緒に参加し、優勝されたことも…。おのころの家でも前に近くのゲートボール場を借りていたことがありましたが、その時は、丁寧に厳しく指導してもらい、楽しんでいました。

仲がいい母娘

手話表現する姿も、身体全体を使った魅力ある手話です。思い出話とかしてもらおうと、私達もほんとにその場にいたよう

巖さんには、夢があります。将来、おのころの家が中川原ふれあいセンターの方に移転したら、中川原地域のみなさんと一緒に手芸をしたり、ゲートボールをしたいということです。ルー



〒656-0025
洲本市本町7丁目3-41
営業日時: 月~金 9:00~18:00
TEL・FAX 0799-22-6133

「美味しかった!」

3月はお別れの季節です。いろんな職種の方々がお別れの気持ちを伝える時におのころ屋のクッキーを添えて下さいます。それを味わった方が「美味しかった!」と買いに来てください。まったく知らない皆さんとクッキーを通じて繋がっているんだなあとスタッフ一同嬉しく思っています。毎日、バターと砂糖を練って、卵や小麦粉を入れ15種類ほどのクッキーを焼いています。

ルを知らない人には厳しく教えるけれど、一緒に楽しみたいということ。審判免許も持っている巖さんですから厳しく丁寧な手ほどきして下さい。一緒にできる日が楽しみですね。(生活支援員 藤本)



▲「美味しかった!」と来店くださるお客様

パン同様に焼きあがりには格別美味しいです。冷めてから袋詰めしてお店に並べるまで時間と手間がとてまかかります。4月からは県からの家賃補助金がなくなる上に電気代や材料費の値上がりで厳しい現実があります。1袋100円のために、皆さんに喜んで食べていただくために知恵を出し合い、頑張つて作り続けます。(職業指導員 岡本)



地域GBクラブで優勝したチーム

3・9高知で暮らす聴覚障害者が社会資源の充実を求め決起集会



▲四国各地からも応援に駆けつけました。兵庫からも9名が「共にならぼう」とエールを送りました。

様々な過酷な事例から完全看護の病院で手術したAさんは、看護師からの手術後「痛み止めがない

高知県では、手話通訳設置に関しては高知市のみの設置で設置率3%と全国で最下位、通訳の派遣事業も59%と全国平均74%を大きく下回り、聴覚障害者は深刻な苦しみを背負わされています。

淡路聴覚障害者センター
センター便り

洲本市港 2-26
洲本市健康福祉館 3階

老人ホーム設置は緊急課題
こうした状況を解決するためには、聴覚障害を理解し、生活

2月からの、淡路ふくろうの郷、居宅介護支援事業所「桜ヶ丘」、おのころの家、淡路聴覚障害者センター、ひようご聴覚障害者介護支援センターの職員が集まり、相談担当部門の連絡会が開かれることになりました。
か？」との問いかけが伝わらず、あまりの痛さに体中の点滴を自分で抜き、血まみれで廊下を這いずり回っていたり、別の病院でもコミュニケーションが取れないため、看護師の行為を理解できず興奮し、強制退院させられた。また、別のろう者は近隣のトラブルが絶えず、警察や社協から連絡が入り、通訳者が訪問して話を聞くと落ち着く。早く手話でコミュニケーションがとれる環境に入れて安心できる生活をさせてあげたい。持病悪化で一人暮らしができなくなったろう者は「もう将来はない、死にたい」と繰り返すなど、様々な問題が起っています。

各事業所の現状や課題などを報告することで、情報の共有を図っています。
また、今まで使っていたフェイスシートを作り直し、今後は統一されたシートを使うことに決まりました。情報の共有を進める中で、各事業所の利点を生かしながら、スムーズな連携を図っていければと思います。
(ふくろうの郷相談 谷口)



▲高知県でのこうした取り組みは初めてで、地元新聞にも大きく報道されました。

ばと思いました。(辻)

お知らせ

4月25日(木) 10:30~17:00
移動相談：淡路市北淡地区
午前：北淡市民センター 午後：家庭訪問

4月26日(金) 10:00~17:00
～こころのケア相談～
1人で悩まずに話にきてみませんか？

5月23日(木) 8:00~18:00
～社会見学～
山城地域活動支援センター(さんさん山城)

◆ お問い合わせはセンターまで
TEL：0799-24-3850
FAX：0799-26-1175

手話講習会「淡路会場」追加のお知らせ

平成25年度の手話奉仕員養成講座について、3月号ふくろう新聞でお知らせしましたが、淡路市に住むろう者や手話サークル会員から、淡路会場・夜の部を是非開いてほしいとの強い要望があり、追加開催することになりました。是非多くの方に手話を学び、ろう者の理解を広げていければと思います。

地域と密着し、いろんなニーズに 応えているサービスを学びに行こう

「さんさん山城」は、京都府南部にあり、地域の特性を生かした農作物やお茶の栽培、また難聴者や難聴児のデイサービスなど地域とのつながりを大事にした事業を行っています。淡路では今後どんな資源が必要か、参考に学びに行きましょう。詳細は別途チラシでご案内します。

▲ 茶摘みの様子



続・地域を語る

第52号

淡路人形浄瑠璃芝居

中野人形座の主な公演

全二日 湊東区各学校各団体、全五日 灘区学校にて、全五日 林田小学校にて、いずれも一日二回の公演をしたものだった。

昭和十年十一月二十五日の人形芝居公演に関する準備整頓して、洲本劇場にて県立淡路高等女学校職員生徒を初め本会関係者等、千二百名を招待して初公演を催したもので、翌二十六日朝便船にて一行三十五名乗船して神戸市に向う。

昭和十年十一月二十七日神戸市別格官幣社湊川神社にて人形「楠公父子、久子の方の入魂式」を終えて、午前十一時より七生館にて県庁、市役所、神社関係者、市内各学校長、各代表者の方々の観賞に供したもので、東京より顧問を代表して堀内中将来神参列ありて、全招待者三百五十余名の多数にて、神戸市内の各学校及各種団体に対して順次公演を続けた。

十一月三十日、十二月一日、二日兵庫校にて区内教育会に、

全十二月九日神戸市葦合区学校にて公演引続き市内巡回公演をしたものだった。(畧)

この間に中野篤一郎氏の提案に、島内有志の協賛を得て、財団法人淡路人形芸術復興協会を結成して、淡路操人形再興に力を入れ出したもので、ここにようやく無形文化財の指定を受けるに至った。

※中川原村史より
今回は、総動員法と乙女座

言語聴覚士の実習を終えて 真のコミュニケーションについて考える

私は、実習に来るまでろうの方と関わったことがなく1年間学校で手話を学びましたが、表現できるのは、名前とあいさつだけでした。不安に押しつぶされそう

な私を初日から職員の方、入所者の方に温かく迎えて頂き、本当にうれしかったです。

この実習を通して真のコミュニケーションとは何かについて考えさせられました。健聴者であれば、音声言語を活用し、相手に思いを伝えます。でも、音声言語に頼りきってしまい、相手と目が合

今回の実習を通して、ろうの方が行っているコミュニケーション方法こそ、私達健聴者が忘れかけている真のコミュニケーション方法ではないかと感じました。

5日間という短い期間でしたが、貴重な体験ばかりで、この体験を学校に持ち帰って話したいと思います。実習というより、「ふくろうの郷」という名の大家族の家にお邪魔しているという居心地の良さを感じました。

本当に有難うございました。
(関西総合リハビリテーション学院：数馬いつみ)

お知らせ 中川原ふれあいセンター開所 1周年記念のつどい

日時：2013(平成25)年7月13日(土)
午後1:00~3:00
会場：旧中川原中学校体育館
※詳細は、次号でお知らせしますが、皆様方の予定に入れておいてくださいますようお願いいたします。



平成25年度 手話講座開講

入居者と一緒に手話の勉強をしませんか
今年度も中川原地域交流会と共催で開講します。

◆開講日程 毎月第1・第3土曜日
午後1時30分~3時
前期 5/18~9/21、後期 11/2~3/15

◆開講式 5月18日(土)午後1時30分
◆受講料 1,500円(テキスト・資料代)
※参加ご希望の方は、5月13日(土)までに、淡路ふくろうの郷へお申し込み下さい。



▲長田道子さん(86歳)

作品介绍

ふくろう大学 絵手紙講座にて